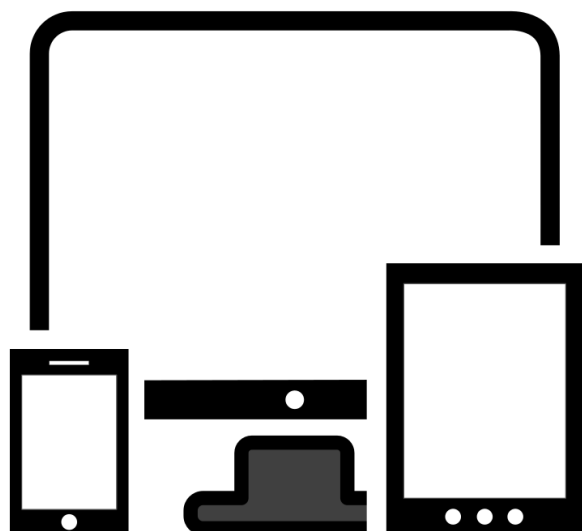


**市内小・中学生を対象とした
インターネット利用に関する調査結果**



近江八幡市教育委員会

平成 30 年 2 月

1 調査目的

児童生徒のインターネット利用の実態について調査することで、インターネットを介した犯罪や、インターネット利用から生じるトラブル(いじめを含む)に、児童生徒が巻き込まれないよう、対策を講じるための情報を収集する。

2 調査対象および調査実施数

市内の小・中学校に在籍する児童生徒 1,821 人

内訳 小学生（4年生から6年生） 894 人

中学生（1年生から3年生） 927 人

3 調査の実施方法

アンケート調査票による選択記入式

4 調査期間

平成 29 年 12 月 11 日（月）～21 日（木）

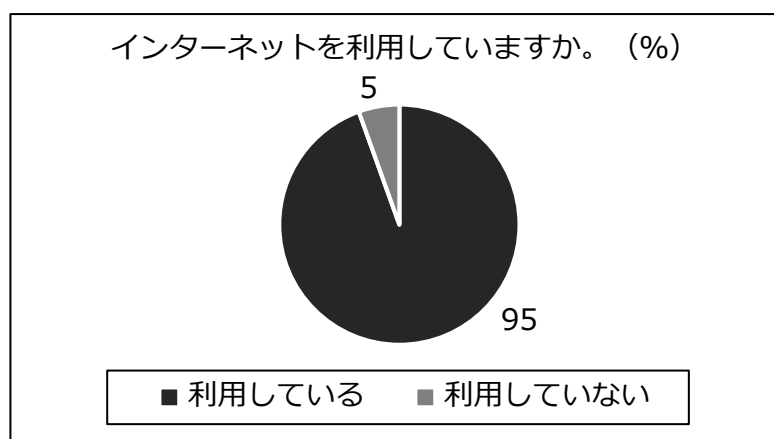
5 調査項目

インターネットの利用の有無、インターネットの利用の開始時期、家庭におけるインターネット端末の有無、主に使用するインターネット端末、家庭での約束の有無および内容、インターネットを利用する目的、コミュニティサービスの利用状況、WEB上での金銭のやり取りの有無、Wi-Fi 利用の有無、インターネット利用時のトラブル等の有無および内容、フィルタリングサービス認識・設定状況

※全項目、学校の授業以外での利用を対象としている。

6 調査結果

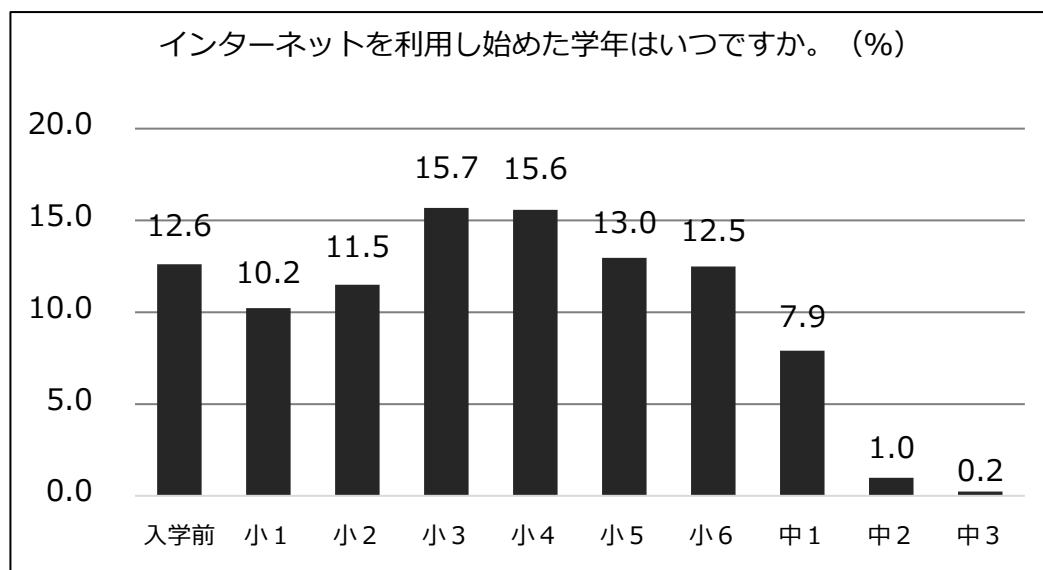
(1) インターネットの利用の有無



小・中学生のほとんど（95%）がインターネットを利用している。

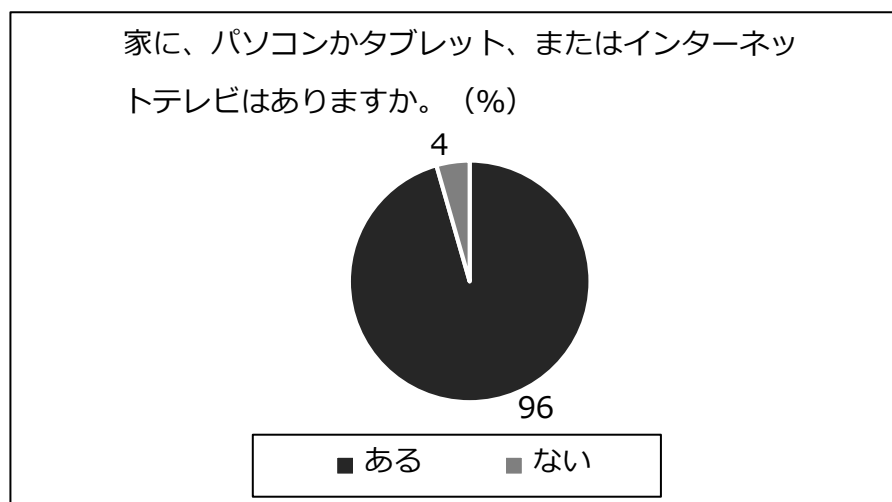
学年別では、小学4年生 87%、小学5年生 97%、小学6年生 96%、中学1年生 94%、中学2年生 96%、中学3年生 97%となっている。

(2) インターネットの利用の開始時期



インターネットの利用の開始時期のトップは「小学3年生 (15.7%)」である。また、注目すべきこととして、「入学前」のポイントが12.6%と高いことが挙げられる。低年齢化の傾向が見受けられる。

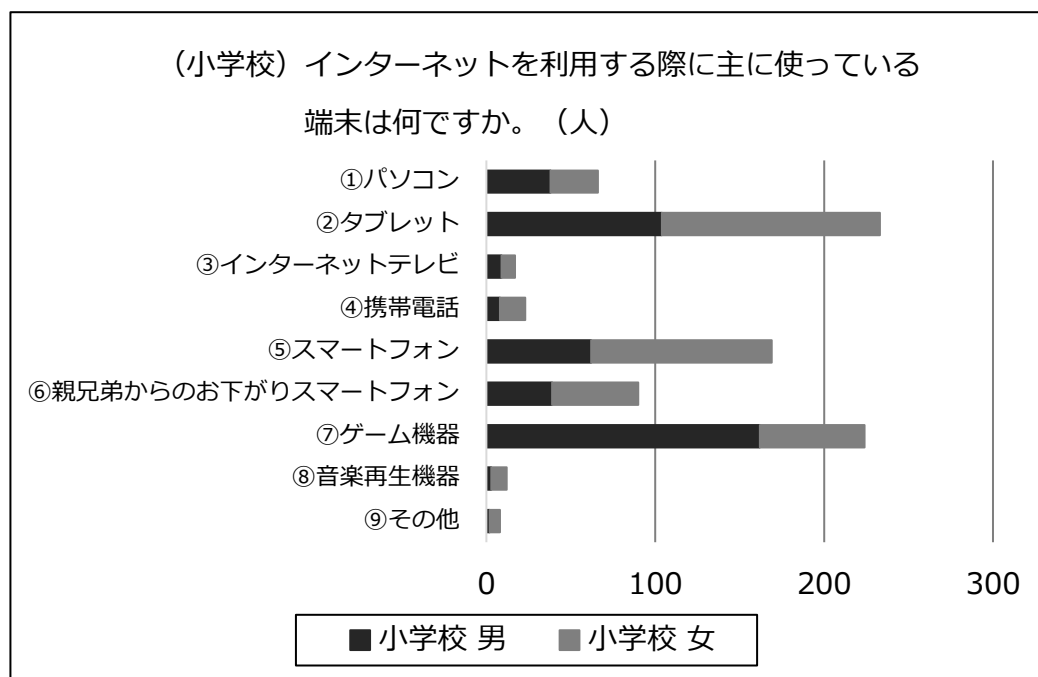
(3) 家庭におけるインターネット端末の有無



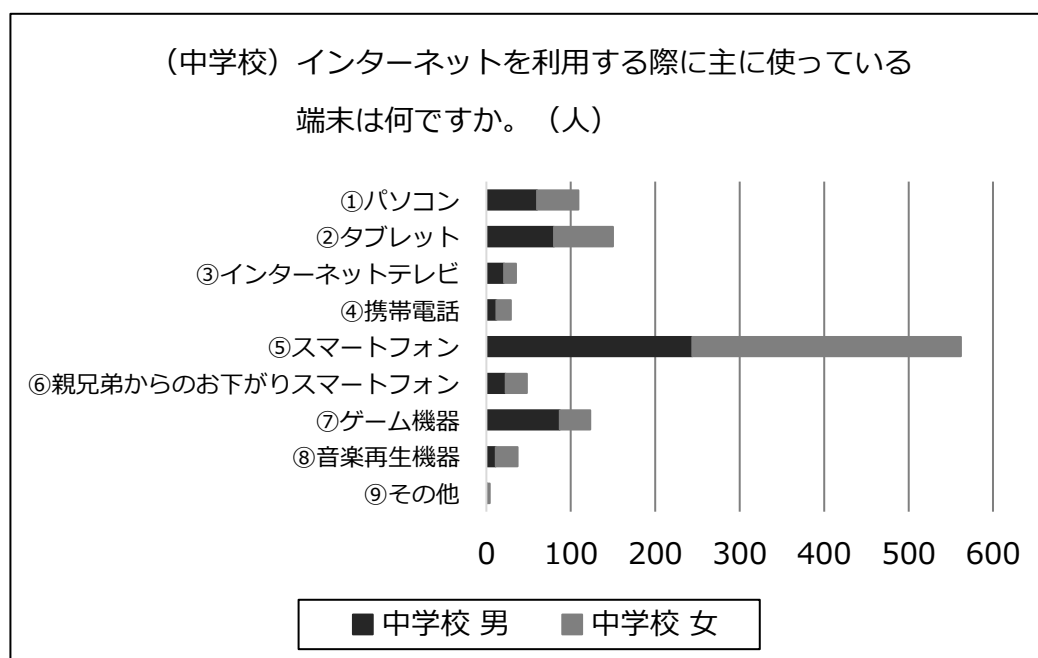
ほとんど (96%) の家に、パソコン・タブレット・インターネットテレビなどのインターネット端末がある。

(4) 主に使用するインターネット端末 ※最もよく使用する端末を1つだけ選択

① 校種ごとの状況

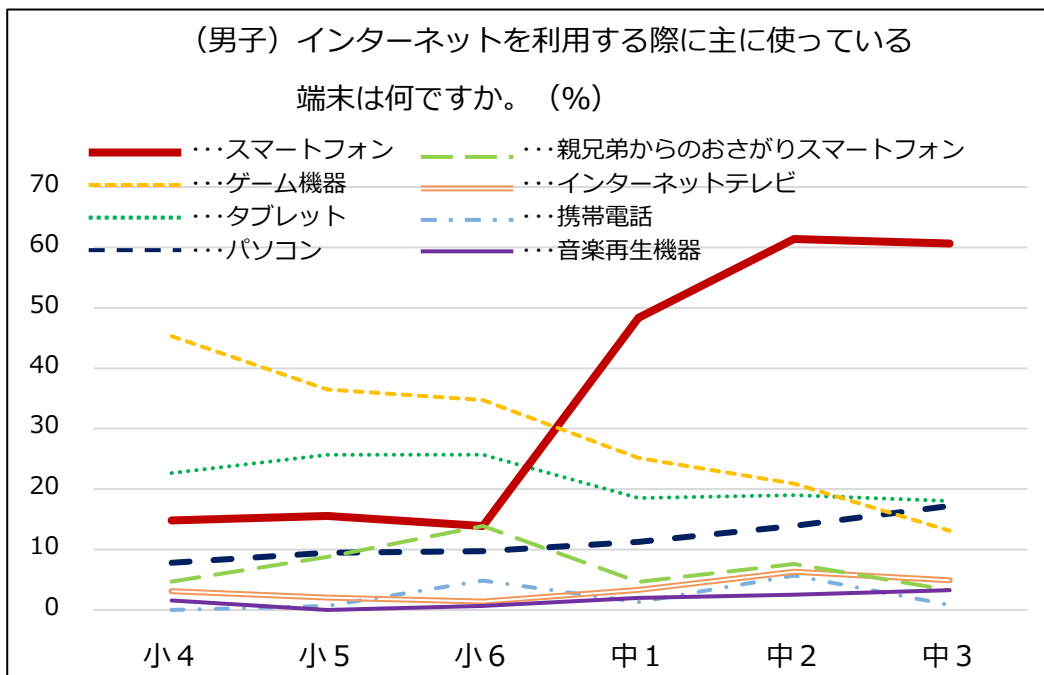


小学校では、男子は「ゲーム機器」、女子は「タブレット」や「スマートフォン」の使用率が高い。

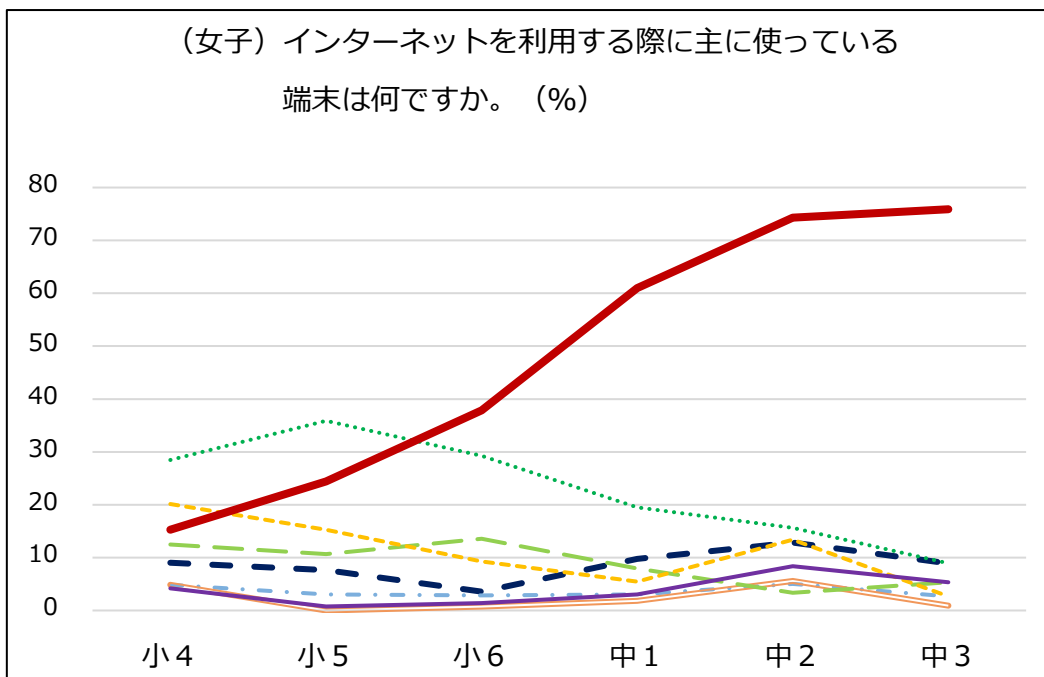


中学校では、男女ともに「スマートフォン」の使用率が非常に高くなる。昨年度の調査によると、中学1年生から急激に、自分のスマートフォンを持つ子が増えることが分かっている。

② 学年ごとの推移



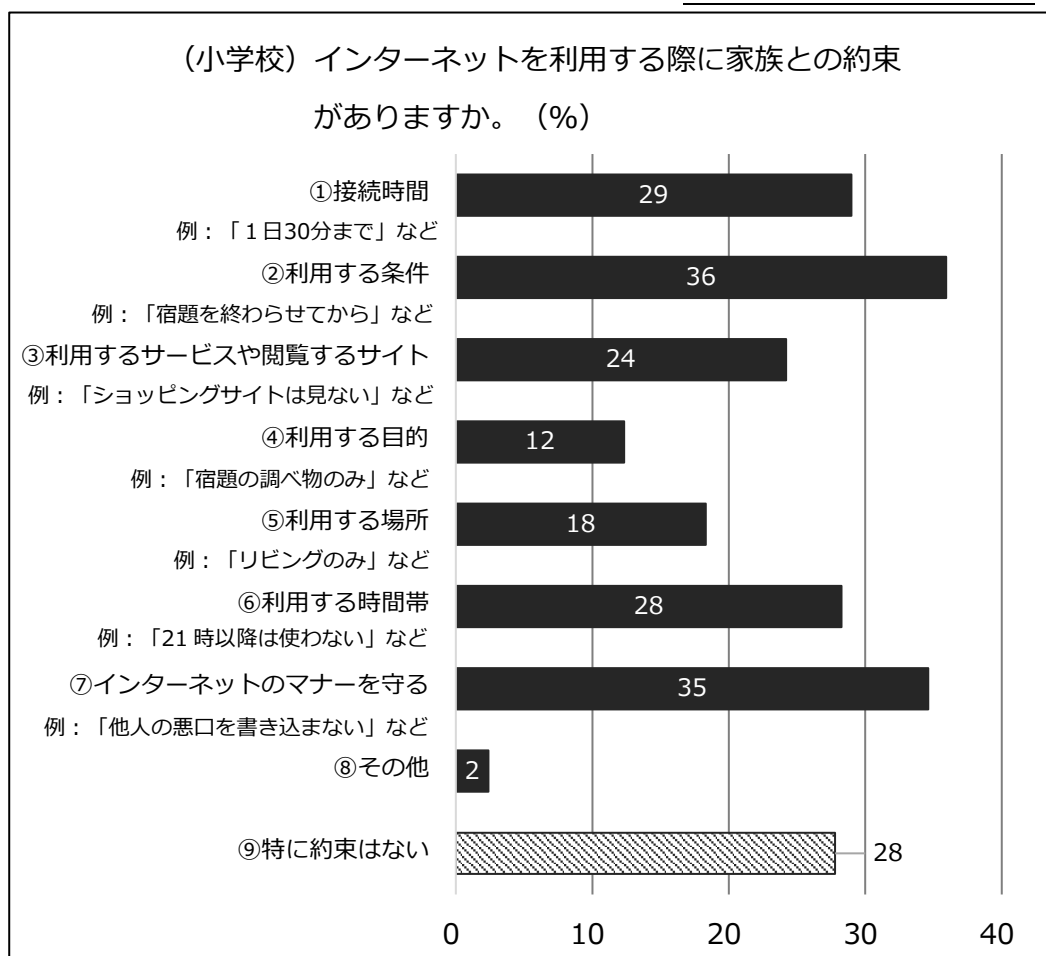
男子は、小学生の間は「ゲーム機器」の使用率が高く、中学1年生で急激に「スマートフォン」の使用率が高くなる。



女子は、小学校の間は「タブレット」の使用率が高いが、年齢を重ねるごとに「スマートフォン」の使用率が徐々に高くなっていく。自分のスマートフォンを所持し始める時期が、男子よりも早いことが伺える。

(5) 家庭での約束の有無および内容

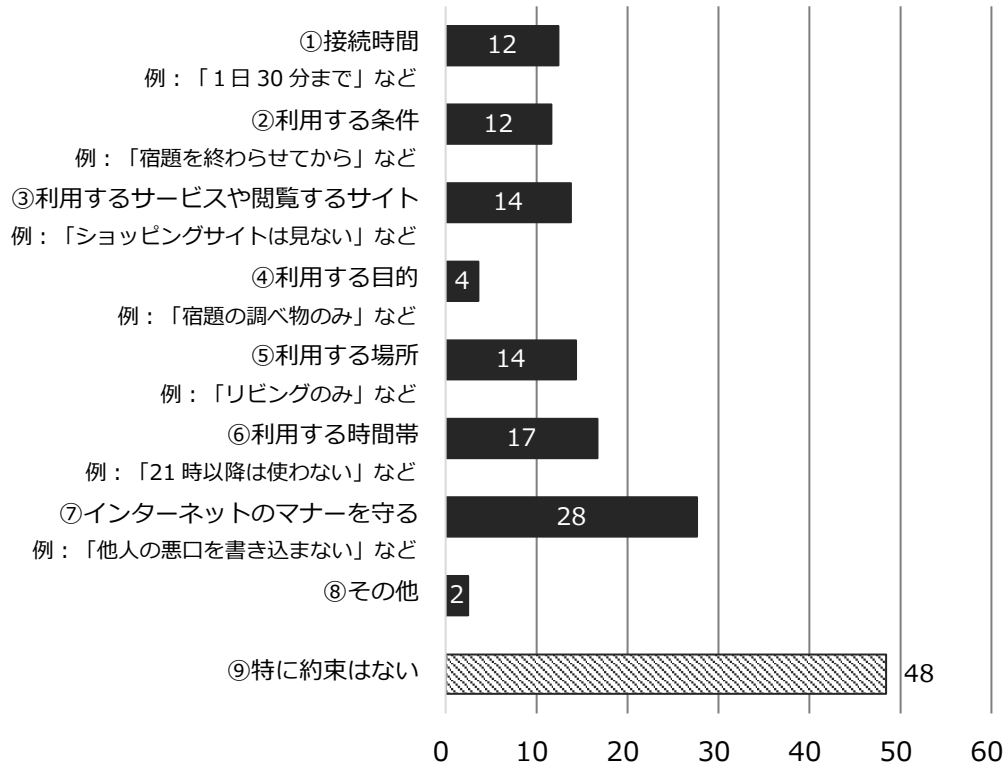
※当てはまるもの全てを選択



小学校では、72%の児童が家族との約束のもとで、インターネットを利用している。約束事で最も多かったのは「利用する条件」(36%)、次いで「インターネットのマナーを守る」(35%)とどちらも3割以上の家庭で設定されている。

また、複数の約束事を設定する家庭が多く見られた。

(中学校) インターネットを利用する際に家族との約束
がありますか。(%)



中学校では、52%の生徒が家族との約束のもとで、インターネットを利用している。

小学校と比較すると20ポイント低くなる。スマートフォンを所持する子が急増し、活用の幅が大きく広がる時期である。家族が必要な注意やアドバイスをしてあげることが大切である。

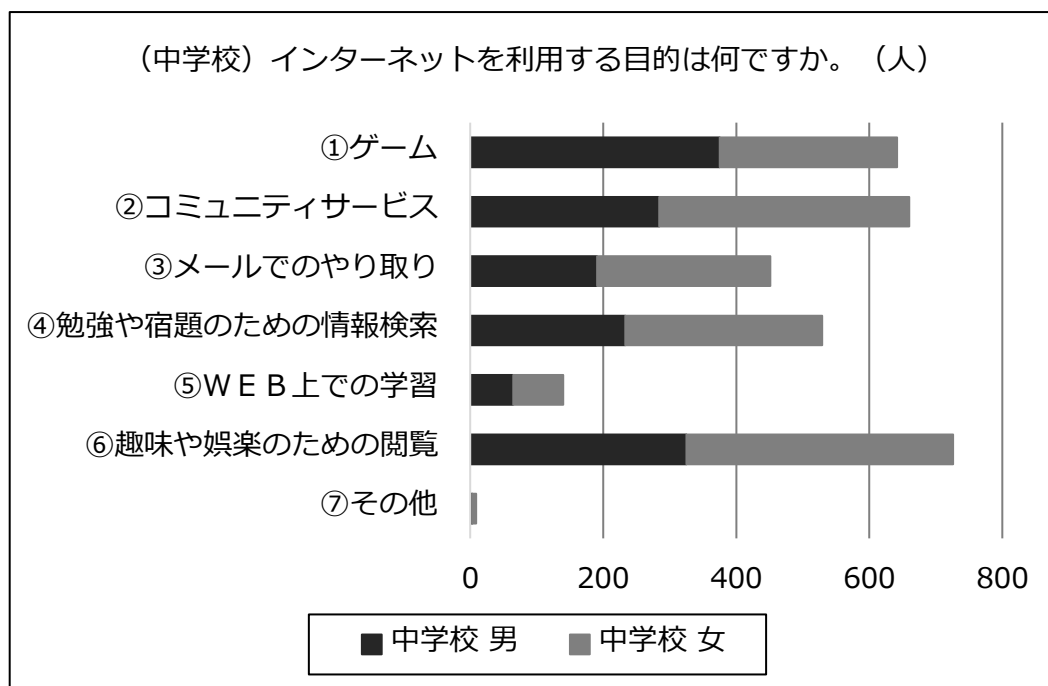
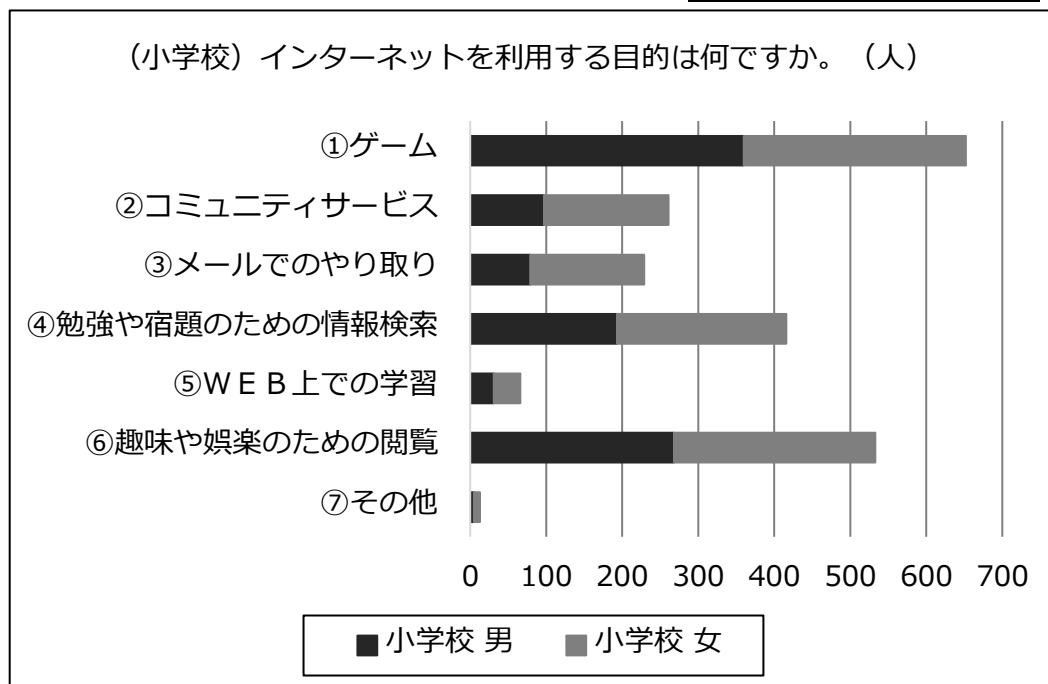
市で提案をしている「我が家の携帯電話・スマートフォン 約束事10か条（推奨版）」の活用を、引き続き促していく必要がある。

「その他」の内容としては、以下のような内容が見られた。

- 親がいる時だけ
- お金を使わない
- パスワードを親が管理
- 使う相手
- よく分からないものは開かない
- 親の許可を得てから
- 利用する通信容量
- テスト期間中は使わない
- 使用制限を解かない
- 自分からLINEをしない
- 外に持ち出さない
- ゲームをしない
- 勝手にアプリを入れない
- 弟がいるときはだめ

(6) インターネットを利用する目的

※当てはまるもの全てを選択



インターネットを利用する目的は、小・中学校ともに「ゲーム」や「趣味や娯楽のための閲覧」が多い。また、注目すべきこととして、中学校になると、「コミュニティサービス」の利用が急増することが挙げられる。

～「コミュニティサービス」の利用率～

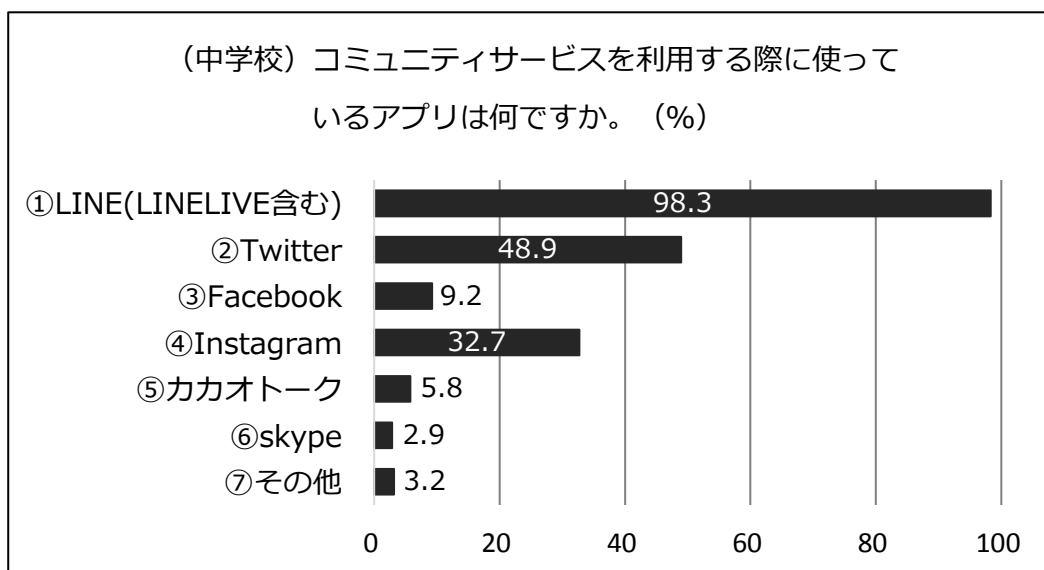
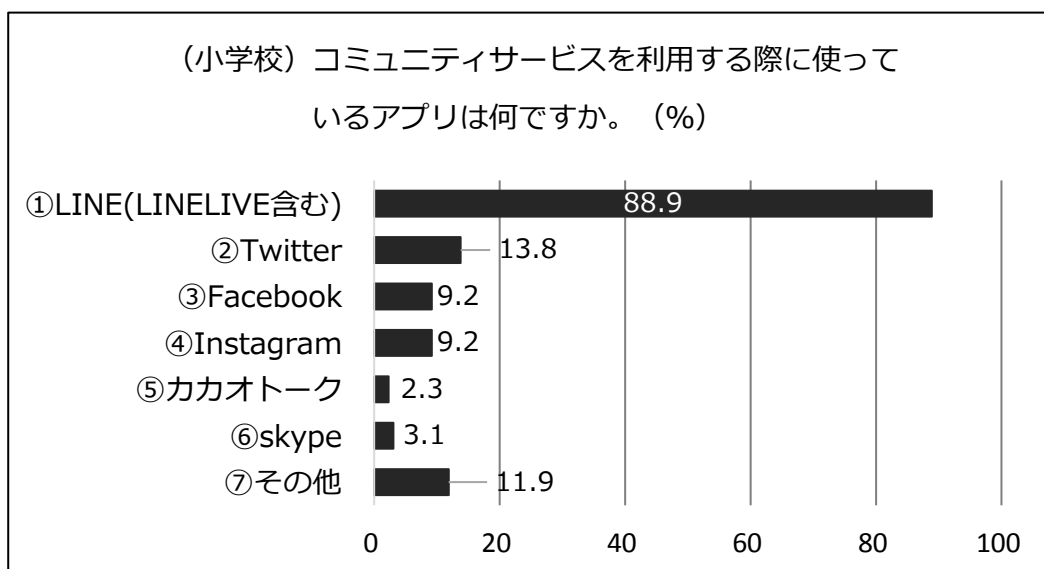
小学校：31.3% → 中学校：74.5%

(7) コミュニティサービスの利用状況

※当てはまるもの全てを選択

コミュニティサービスを利用していると回答した小学生 261 人（小学生全体の 31.3%）と、中学生 660 人（中学生全体の 74.5%）を対象に、利用の状況を調査した。

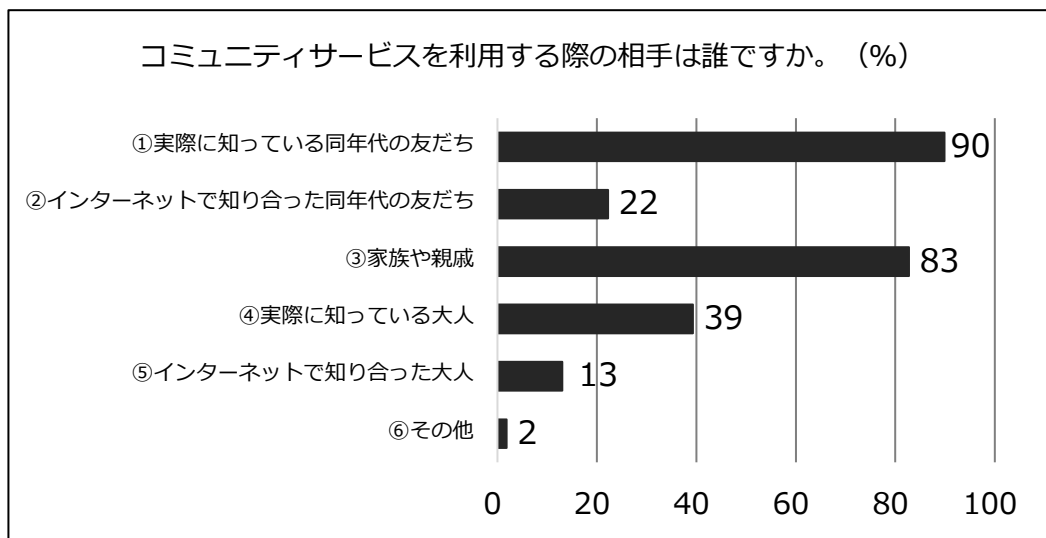
① コミュニティサービスを利用する際に使っているアプリ



コミュニティサービスを利用する際のアプリは、LINE の利用率が非常に高く、小学校で 88.9%、中学校で 98.3%の子が利用している。
また、中学校になると、利用するアプリが複数になる子が増え、Twitter や Instagram の利用率が増加する。

「その他」の内容としては、『MixChannel (ミクチャ)』や『SNOW』といった写真や動画を投稿するアプリが多く挙がっていた。

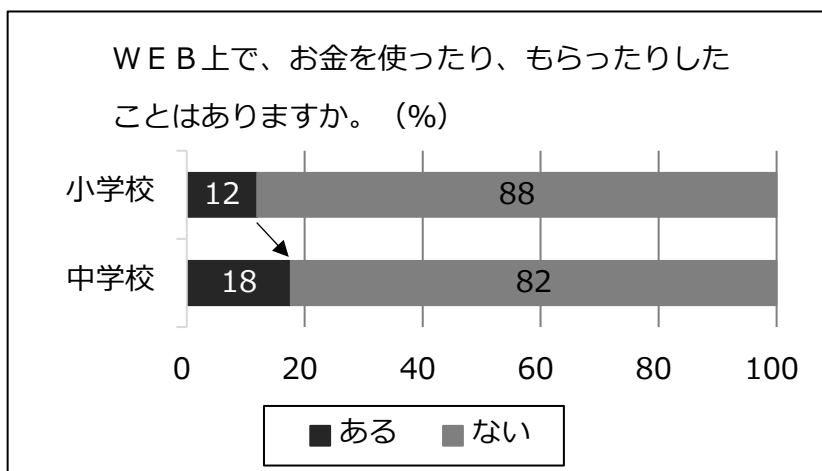
② コミュニティサービスを利用する際の相手 ※当てはまるもの全てを選択



コミュニティサービスを利用する際の相手としては、「実際に知っている同年代の友だち」や「家族や親戚」が多い。

インターネットで知り合った見知らぬ人とのやり取りも、同年代の友だちが22%、大人が13%見受けられる。悪意をもった人による誘い出しや不当な要求等で、犯罪被害に合わないよう注意しなければならない。

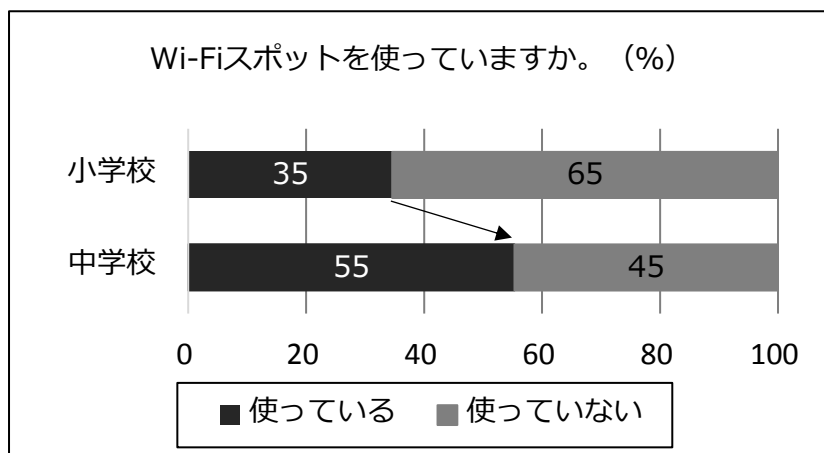
(8) WEB上での金銭のやり取りの有無



WEB上でお金のやり取りをしている子どもの割合は、小学校は12%で、中学校では6ポイント増えて18%である。

金銭感覚が未成熟であろう子どもたちが、実態が把握しづらいWEB上でお金のやり取りを行う危険性について、本人も保護者も自覚をしなければならない。

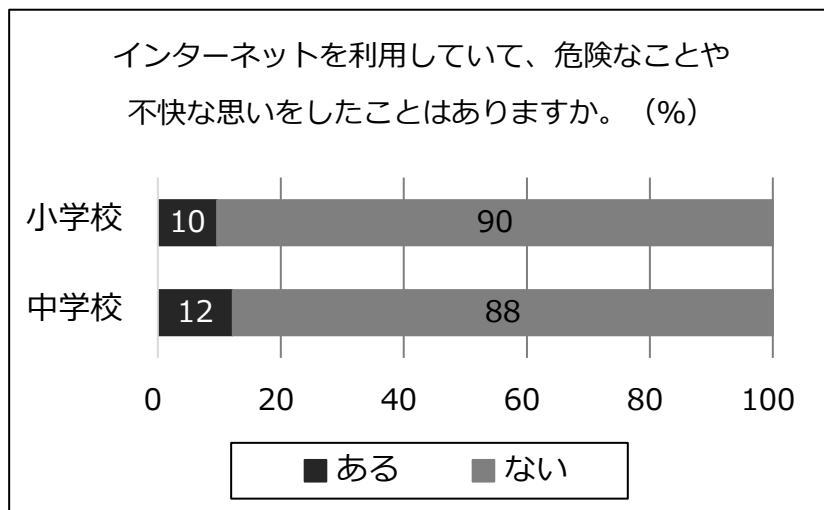
(9) Wi-Fi 利用の有無



Wi-Fi スポットを使っている子どもの割合は、小学校は35%で、中学校では20ポイント増えて55%である。

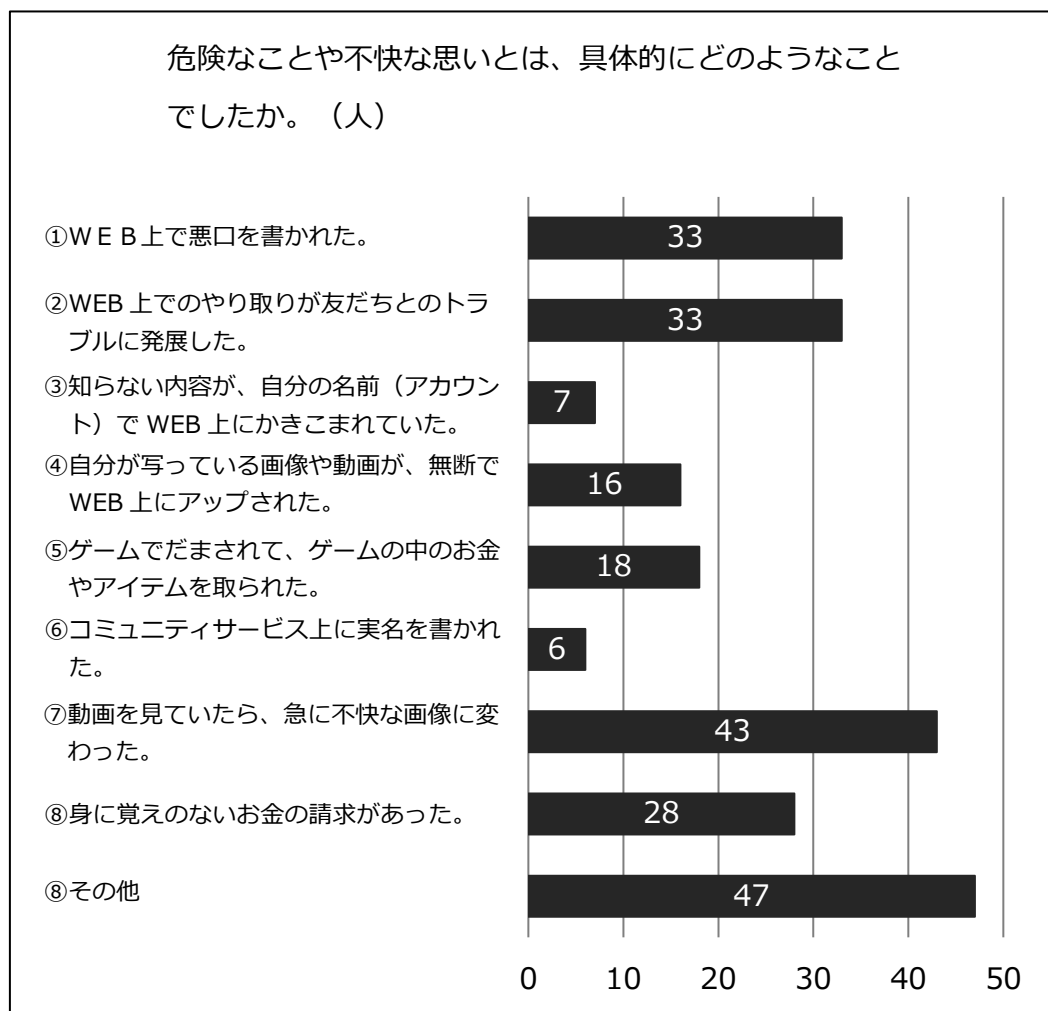
Wi-Fi スポットは便利である一方で、第三者に通信内容を盗聴される恐れがあったり、その場所に集まる未成年者を狙った犯罪が行われたりと、利用には危険性をはらんでいることを自覚しておかなければならない。

(10) インターネット利用時のトラブル等の有無



インターネットを利用している子どもの約10%が、何らかのトラブルを経験している。

- (11) インターネット利用時のトラブル等の内容 ※当てはまるもの全てを選択
 インターネット利用時にトラブル等があったと回答した小学生 79 人（小学生全体の 10%）と、中学生 103 人（中学生全体の 12%）を対象に、利用の状況を調査した。

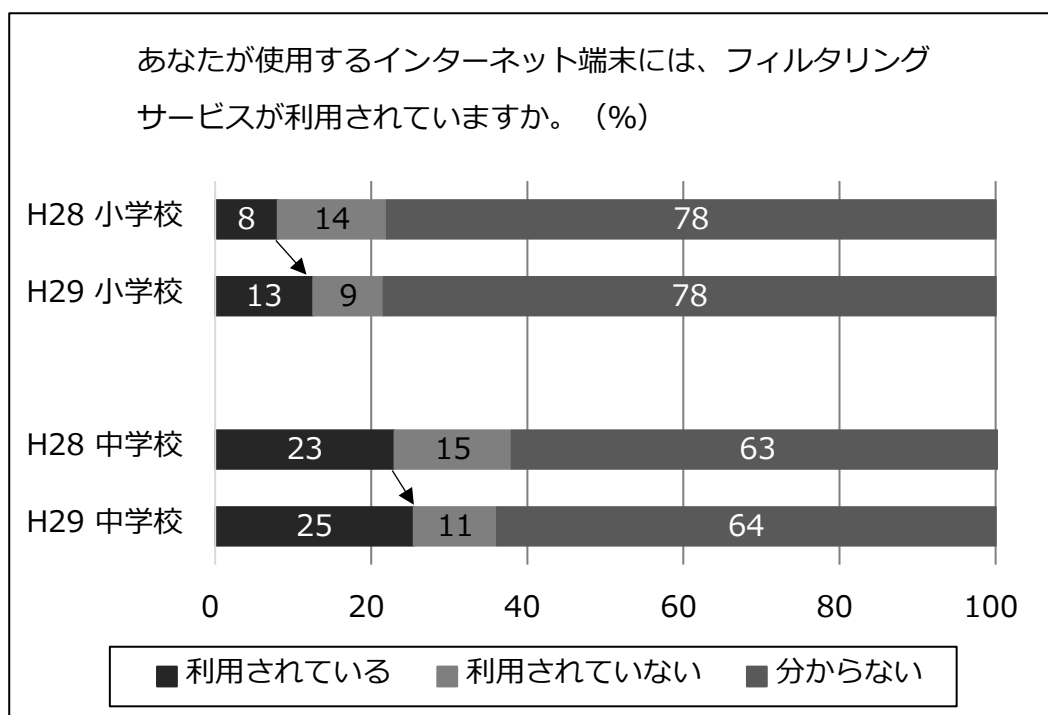
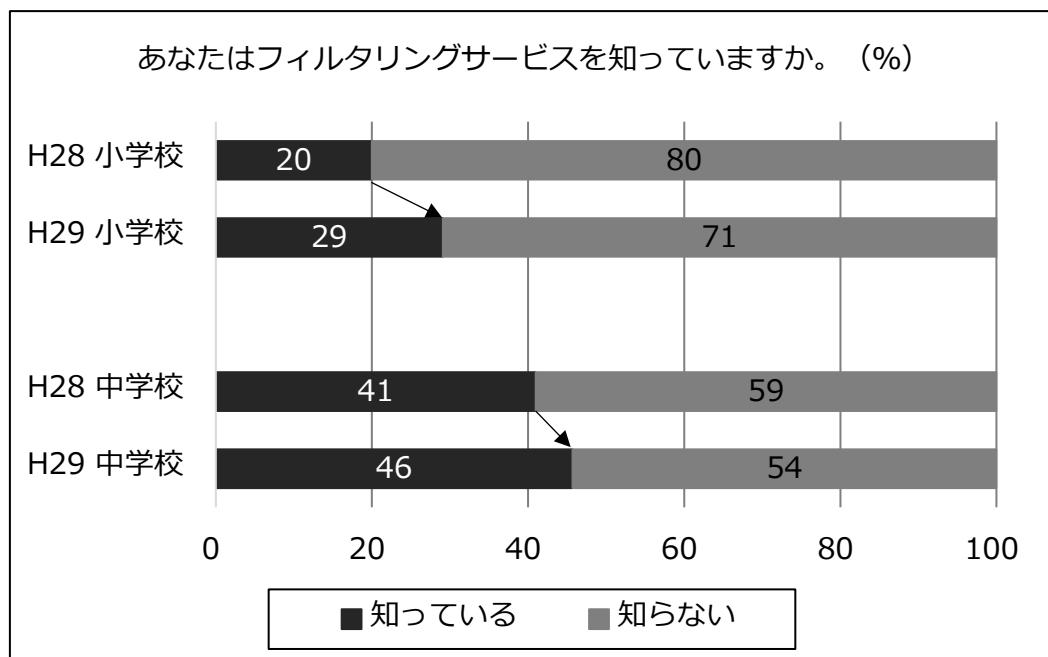


インターネット利用時のトラブル等の内容として最も多かったのは、「動画を見ていたら、不快な画像に変わった。」である。WEB上には子ども達にとって不適切な情報があふれており、それらを、悪意をもって流出させているサイトがあることに注意をしなければならない。

WEB上でやり取りをする相手とのトラブルの件数も多い。ネットを介したいじめへの発展も危惧されるところである。

「その他」の内容は、『なりすまし』『LINEの乗っ取り』『サービスからの追放』『迷惑メール』など様々で、中には『知らない人から電話があった』『顔を見せろとしつこく迫られた』など、犯罪被害につながりかねない内容のものもあった。

(12) フィルタリングサービス認識・設定状況



フィルタリングサービスを知っている、利用されている子どもの割合は、小学校でも中学校でも増加しており、フィルタリングサービスが少しずつ普及をしている様子が伺える。